

# 豊かなセカンドライフを見つける機会 まちづくりインターン(案)

---

総合企画局 総合政策室 SDGs・市民協働推進担当

2022年7月

※まちづくり活動：まちを良くするため、住みやすいまちにするための自主的な活動、社会に興味を持って社会に関わる行動など、全ての地域、社会とかかわる活動のこと。子ども食堂、清掃活動、見守り活動（防犯や福祉）、教育支援、など幅広くあります。

# 現状：まちづくり活動への関与（社会生活基本調査）

図2-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率(平成23年, 28年)

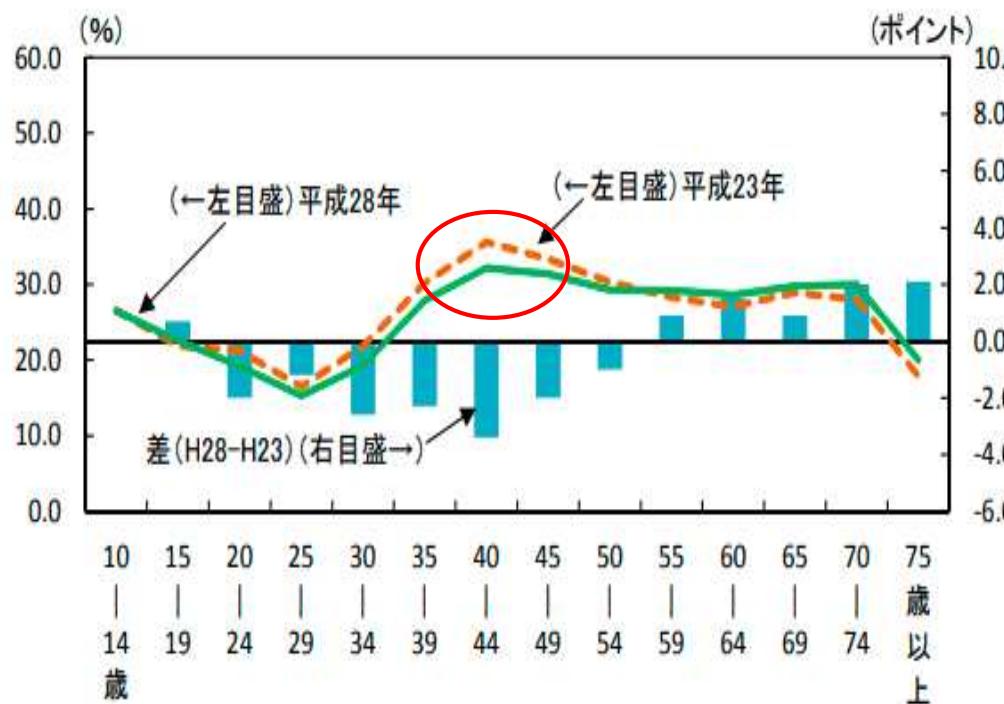
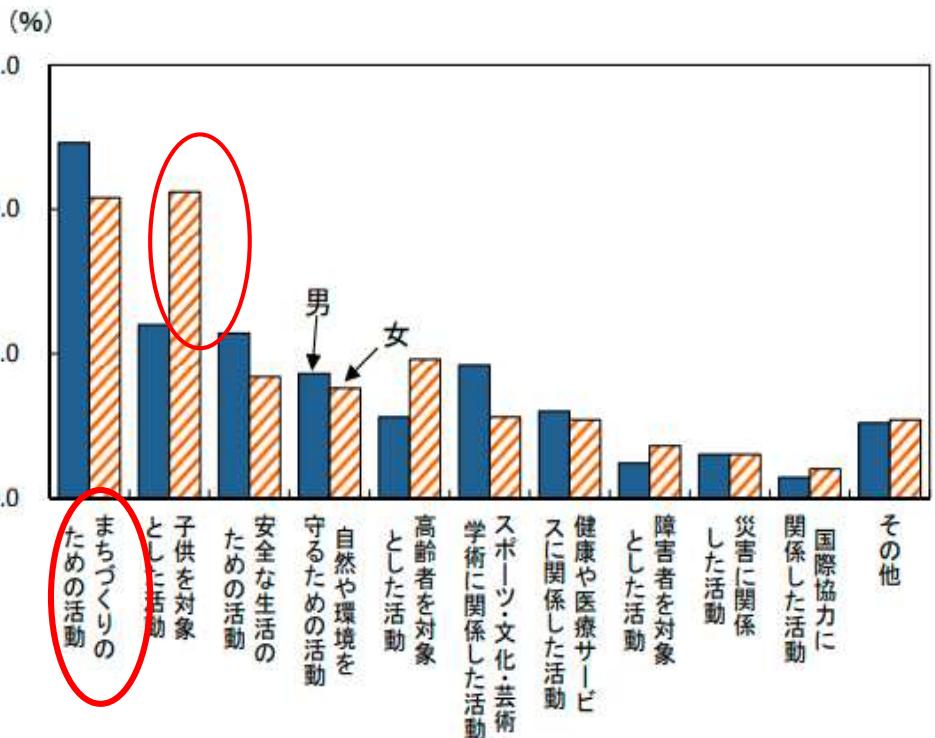


図2-4 「ボランティア活動」の種類 男女別行動者率(平成28年)



- ボランティア活動の行動者率は35歳から74歳まで約30%で推移している。
- ボランティア活動の種類は、まちづくりのための活動が高い。子供を対象とした活動で女性の行動率が突出して高いのは子育て期にPTA等の活動が多くなるものと推測される（年齢別で35歳からの上昇もその影響）。

# 現状：まちづくり活動への関与（京都市市政総合アンケート）

令和元年度に実施した京都市市政総合アンケート結果

参加する活動の多い順に、自治会・町内活動、ボランティア活動と続く。それぞれ年代が高いほど活動への参加の割合が高くなっている（回答数1,000、回答総数：1,525）。

問 参加したことがある「まちづくり活動」（複数回答）

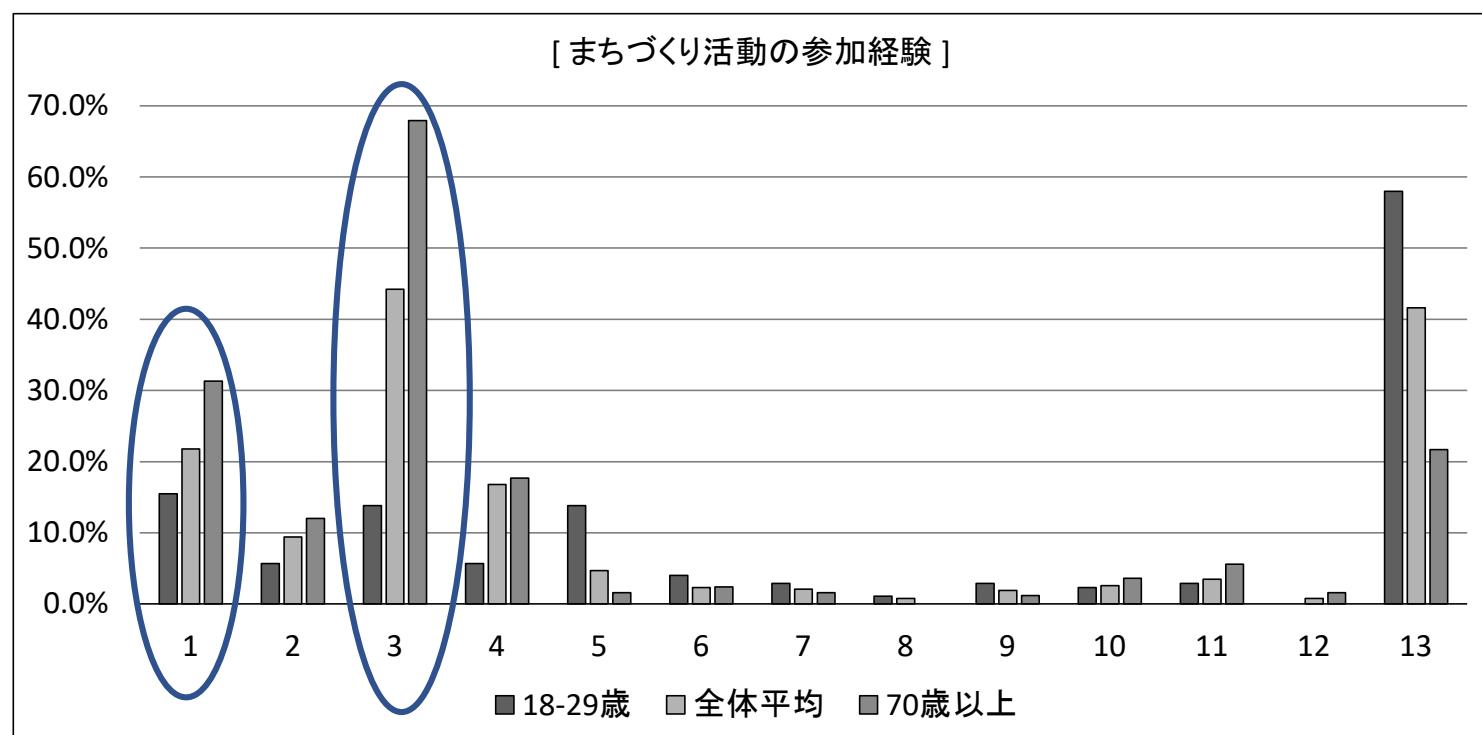
- 1 近所の清掃や、個人として参加するボランティアなど（個人としての活動） 21.8%
- 2 寄付、クラウドファンディングなど、金銭的な支援（個人としての活動） 9.4%
- 3 自治会・町内会などの活動 44.2%

＜回答省略＞

13 参加したことがない

41.6%

[数値は全体平均のみ]



# 現状：まちづくり活動への関与（京都市市政総合アンケート）

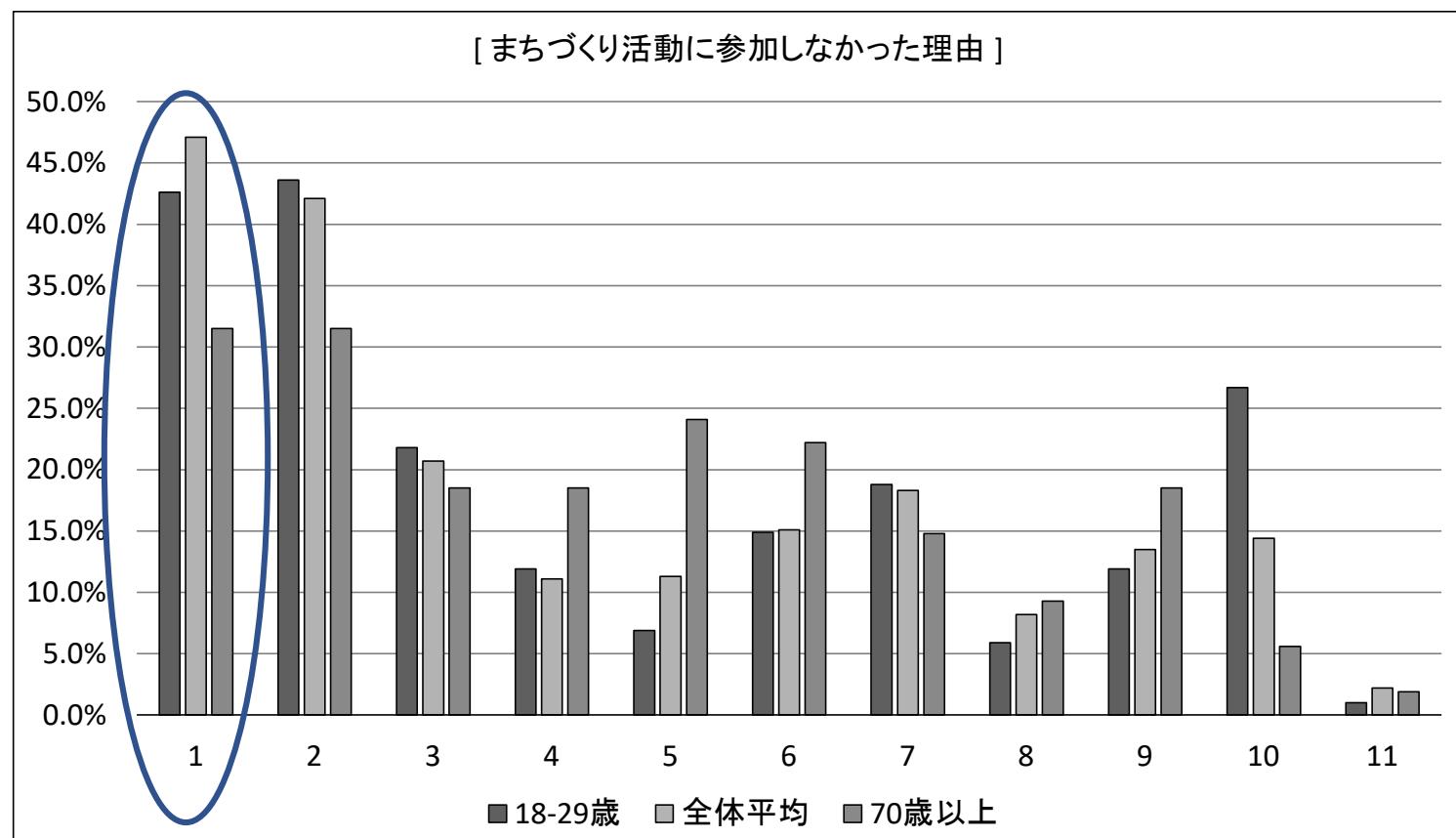
前の問で「参加したことがない」(41.6%)と回答された方に質問（416件 /1,000件）。参加方法が分からぬことが理由として最も高かった。

問10【新規】 まちづくり活動をしなかった理由（3つまで回答）（回答総数：848）

- 1 参加のきっかけ、方法がわからない、わかりにくいくらい 47.1%
- 2 参加する時間がない、合わないから 42.1%
- 3 一緒に参加する仲間がない、少ないから 20.7%
- 4 活動の場の敷居が高いから 11.1%
- 5 肉体的に負担がかかるから 11.3%

＜回答省略＞

[数値は全体平均のみ]



## ～人生100年時代における次のステップへのインターン～

- ・ 55歳から65歳の方々が新たな活躍の場を見つけるためのお手伝いをする。それが地域社会への貢献やまちづくり活動への参画につなげられるようにする。
- ・ 経験豊富で多彩な知恵を持っておられる年代の方に、まちづくり活動への興味を持つてもらい、気軽にかかわりを持って楽しんでもらえるような仕組み（活動団体へのインターン）の構築を図る。
- ・ この年代の方々にとって地域貢献へのワンステップを安心してトライアルができ、地域貢献活動での活躍（スキルや経験を生かして課題解決に取り組むプロボノ的な動き）につながるようなメリットを感じてもらいつつ、市民参加の裾野拡大などの効果が得られるような仕組み構築となるように仕立てる。

## 対象者：市民参加の裾野拡大のターゲット層

- ・ 受講者は、55歳から65歳の方（地域企業、金庫、市職員への声掛けによる募集）
- ・ 活動の紹介側として、区役所、支所、総合企画局、関係機関が関わるまちづくり活動団体（それぞれからの声掛けによる募集。4回×約5団体）

対象者の募集にあたっては、商工会議所や中小企業家同友会へ企業の社員・嘱託社員、地域の事業主への声掛けの協力を依頼するなどして多くの参加者を募る。金庫内や市職員へも嘱託職員を中心に参加者の募集を図る。

# プログラムの例：①現在と異なる新たな活躍の場を探す、②身に着けてきた自身の社会経験を活かす場が見つけられる、③社会とのつながりを保つ

<1日目>

## ゲストスピーカーからの講演

- ・ 新たな活動探しを仲介支援する団体から、これまで所属してきた組織と異なる場での活動の意義や参加者の反応（やりがい、喜び等）について話してもらう。
- ・ 社会課題の解決に取り組むNPOや一般社団法人の方から、活動を開始したきっかけや活動を通してよかったことなどを話してもらう。

## グループワーク

1 テーブルにまちづくり団体の方 1 名程度、参加者 3 ~ 4 名がつき、団体の活動内容を聞きながら、参加者が自身で何ができるか、何をやってみたいかを表明しながら意見交換

- ・ チェックイン（自己紹介等）
- ・ 社会課題に対する問題意識や自身でできることを洗い出し
- ・ 社会課題の解決を行う団体活動で使える自身の社会経験の洗い出し
- ・ 上記を 2 ~ 3 ラウンド実施

## マッチングタイム

興味を持った活動団体の見学・体験参加の予約を行う。当日来られていな  
い団体のリストも紹介して、見学・体験参加を促す。

プログラムの例：①現在と異なる新たな活躍の場を探す，②身に着けてきた自身の社会経験を活用できる場が見つけられる，③社会とのつながりを保つ

<2日目>

ゲストスピーカーからの話

- ・ 参加者の受入を行ったまちづくり活動団体からその内容を発表してもらう。見学・体験参加をされた方からも感想等を言ってもらう。

グループワーク

1 テーブルにまちづくり団体の方 1 名程度， 参加者 3 ~ 4 名がつき， 団体の活動内容を聞きながら， 参加者が自身で何ができるか， 何をやってみたいかを表明しながら意見交換

- ・ まちづくり活動団体メンバーとなって， 活躍できたこと， 学んだことなどを書き留めてもらう（個人ワーク）
- ・ チェックイン（自己紹介等）
- ・ いきいきと暮らすために大事なことは（社会貢献活動の大切さを振り返り）
- ・ 自分らしく暮らすための次の一步は（自身の関心事の掘り下げ）
- ・ 上記を 2 ~ 3 ラウンド実施
- ・ 興味を持った活動団体への見学・体験参加の予約を行う。

マッチングタイム

テーブルで話を直接聞いたところに体験参加予約ができなかった方に， 当日来られていない団体の活動を紹介して， 見学・体験参加を促す。

## 効果の検証：持続的な取組の構築

- ・ 参加者のうち、どれほどの方が見学・体験参加につながったか、見学・体験参加をされることでまちづくり活動への関心がどれほど高まったかをアンケート等を用いて調査する。
- ・ それによりどのような働きかけや団体、活動内容がまちづくり活動への興味・関心を高めたか、どのような団体や体験プログラム、受け入れの工夫が入会につながったかを分析する。分析結果を用いて、本市が市民参加の裾野拡大を図っていくための政策を活用する。

- ・ 55歳から65歳の方が、社会課題の解決に取り組むNPOや社団法人、新たな活動探しを仲介支援する団体から、活動の意義や内容、活動参加者のやりがいや様子を聞き、また場合によっては活動を体験することで、自身の新たな可能性や自身の社会経験を活かす場、興味や関心をくすぐるものかを確認できる機会となる。
- ・ 職場以外で自身の社会経験を活かす可能性を確認できる機会とし、職場以外での活躍の可能性を知れる機会となる。（活動団体が一般社団法人、NPOなら新たな就職先）
- ・ 自治会・町内会などの地縁と異なる活動についても体験することで、気軽に試行的な参加が可能

# スケジュール

